

# ご あ い さ つ

県民の歯科疾患実態調査は、平成7年に発足した「鳥取県8020運動推進協議会」で、先ず県民の口腔内の健康状況を把握することから取り組み、その実態を分析して鳥取県の歯科保健目標を策定する方針が決まった。

この年第1回の『県民歯科疾患実態調査』が実施され、鳥取県ではじめて県民の歯科疾患における実態についての結果を得ることになり、30歳代で現在歯28本以上、50歳代で25本、65歳以上の無歯顎者の割合を25%以下にするといった県民の歯科保健目標が定められた。

このことから、県民歯科疾患実態調査は継続して実施することが方向付けされ、調査は5年を単位とし、対象者約二千五百名程度として実施することになった。その後平成12年に第二回、そして平成17年に第三回の調査を実施した。

今回の調査は、人口比により抽出した人を対象とする地区調査と、県内の各事業所に勤務する人を対象とした事業所歯科健診の方法で実施し、約2,700名余のデータを求めることができた。

調査結果をみると、むし歯罹患率94.5%（H12年・94.2%、H7年・94.5%）、歯肉炎症所見者率67%（H12年・69.3%、H7年66.7%）、喪失歯のある者52.1%（H12年・63.4%、H7年・65.6%）とあまり大きな変化は見られないが、一人平均喪失歯数4.4本（平成12年・5.2本、H7年5.2本）、現在歯数80歳代9.0本（H12年・7.4本、H7年・4.9本）は、喪失歯で約1本少なくなり、80歳代の現在歯数が前回調査より1.6本増加し、10年前の平成7年調査比較では4.1本増えている。また、毎日歯を磨いている人の割合が97%（前回96.3%）、定期健診を受けている人27%（前回8.2%）と増加しているが、定期健診の県民設定目標が30%であるので、今回の調査では大幅に目標値を上回る確立が高い。

今回の調査結果をみると、鳥取県歯科医師会が長年にわたり取り組んできた各種歯科保健事業の成果がようやく目に見えるようになり、多くの県民に「歯科保健と健康」についての認識が高まり普及した結果ではなかろうかと思うところですが、次回調査では更に県民の歯科保健意識が向上するよう「歯と口の健康」向上に努め、歯科保健の充実推進に邁進いたす所存でございますので、各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

社団法人 鳥取県歯科医師会

会長 林 伸 伍